第８回根研究会に参加して

筑波大学大学院　　原　良充

雨が降りしきる会場の外とは対照的に、落ち着いた雰囲気で発表は行われた。

口頭発表では、香川大学の一井先生をはじめとして７名が発表された。内容を把握するのが至難の業であるものも多く、イネ以外の作物に関する発表に限らず、イネにおいても遺伝子の話になるとなかなか理解することが困難であった。そのため、まだまだ勉強不足であるということを痛感させられた。そのような中でも、各発表者の実験方法について注意深く聞いた。自分の研究に生かせるものがあるのではないかと思ったからである。特に名古屋大学の方たちがよく行っていたルートボックスの使用方法には興味を引かれた。

ポスター発表では、「直播水稲の乾田期間が根系に及ぼす影響」というタイトルで発表した。播種時期が違うと根系の発達がどのようになるのかといった内容である（要旨参照）。自分の予想に反して質問が非常に多く、他のポスターを見ることがほとんどできないほどであった。受けた質問は、①なぜキヌヒカリという品種を使用したのか。②使用した播種機で均一に種子を播くことができるのか。③サンプリングの深さを１５㎝にした理由。④除草の体系。⑤モノリスについて。⑥深さ指数とは。⑦サンプリングの回数。⑧植物体の栽培密度。⑨直播きに適する品種はどのくらいあるのか。⑩肥料について。⑪サンプリング時の地上部の高さは。⑫早く播いて乾田期間を長くするとイネの生育にとって有利になるのか。⑬乾田期間の理想は、等である。

また、以下のようなアドバイスも受けた。①垂直にサンプリングしたため、根系の広がりは分からないので、株直下ではなく株の周りもサンプリングしたら良かった。②長方形のモノリスを使って条間にまたがるサンプリングをする必要があった。③入水期を変えてみたら？等々その他にも有益なアドバイスを多々受けた。

ポスター発表後に記念講演があり、それも終わるとすぐ懇親会という慌ただしさであった。懇親会で、香川大学の一井先生や IRRI の伊藤さん達から受けたアドバイスが、イネの根の遺伝解析を始めようとしている自分にとって、大変参考になった。

最後に、根研究会には学会特有の堅苦しさがないと聞いていたが、ラフな服装で参加できるなど確かにその通りであると思えた。また参加者も専門家だけではなく農家の方もいて、他の学会にない面白さが感じられた。また機会があれば参加してみたいと思う。